

# 九州産業大学大学院

KYUSHU SANGYO UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL



令和2年度 研究成果発表会

作品名：いのちの摘みかた

博士前期課程

芸術研究科 造形表現専攻 写真領域

加藤晴生

主査 大日方欣一  
副査 百瀬俊哉  
佐藤慈

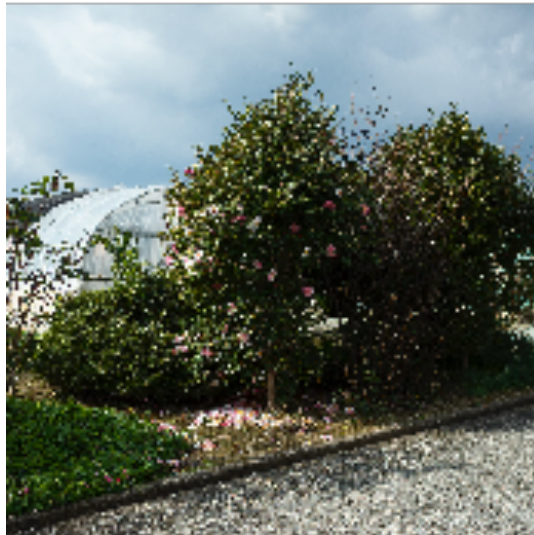
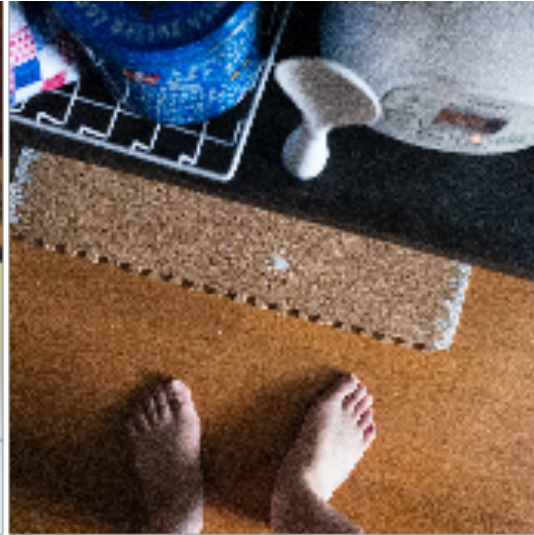
## 作品制作の背景

写真表現の活動において、表現することの要素たちについて取り上げた。その要素たちの軸となる自分自身が、どのような感覚に大きく影響を受けているのかについての考察を試みている。また、新型コロナウイルスの感染拡大によって「表現する」ことについての意識をより集中することになった。作品は写真集三冊で構成される。「表現する」ことへの手がかりを掴むため、物理的経過とそれに伴う心理面での変化を時期ごとに区切るような形で作成した。

## 作品の解説

三冊の写真集「the date line」「墜落タイヨウ」「MEME」で構成される。この三冊の写真集と修士論文を総称して「いのちの摘みかた」となる。大学院修士課程入学後の2019年から撮影したもので、主に2020年に撮影している。

2020年冬から、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって大きく変動した生活の形。それとともに変化していく自分自身の活動力を、時期を区切る形で三冊にまとめている。



## 指導教員コメント

写真撮影と併行し、研究者は、自らの創作行為の内側で起こっている知覚、思考、記憶のドラマを考察するテキストを執筆した。写真を撮る行為の意味を問い直す、写真論的な思考をねばり強く繊細に掘り下げたテキスト及び作品となったことを高く評価したい。

大日方欣一